

NUA「ウクレレ初歩の初歩」講座テキスト

作成：古川 剛

Session1: とりあえずいきなり弾いてみましょうよ。

ウクレレ持った、難しかった、困った……。

そんな方々に厚かましくも、ウクレレ歴もうすぐ一年のわたしは初心者に振り返ってみました。はたして、初心者が初心者に教えるとうなるであります。みんなで、さっそく、たのしみましょうね。

こんにちは、ウクレレに興味を持ったが、どうしよう。と、いう訳で、ウクレレを持って、弾いてしまったが勝ち。と、言った感じで、さっそくやってみよう。まずは、こんな感じに持ってみようか。

(101)右の脇にはさんで、左手の人差し指の付け根にも乗せて。よし、これで構えはOK!

今度は、弾いてみよう。

(102)わかりやすく見せるために斜めにしているからね。ほんとは、人差し指の爪の横あたりでポロロンと弾けるといいんだけど。最初はうまく弾けないんだよね。そこで、邪道なやり方を教えよう。

(103)こんな感じで人差し指の爪の面で弾いてしまおう。すると、キラキラした感じで弾けてるって感じるでしょ。

(104)ちゃんと構えるとこんな感じになるんだけど、爪の面で弾くと、ちょっと弾きづらいんだよね。だから、だんだん、弾きやすいかっこうになってくると、どういう訳か自然に、

(105)こんな感じで人差し指の横の面で弾くようになってくるんだよね。弾いているうちに無理な格好をしなくなるから、安心だね。と、いうわけで最初は爪の面で弾いていけば、自然に、いい格好になる、と信じて弾いてみよう。上から、下に向かってポロロンと弾けたかな?

(106)「ポ

(107) ロロ

(108) ロン！」

と、弾ければOK!

と、ここまででは簡単に書いてはみたものの、もっと詳しく知りたいということでここから詳細を見てみましょう。

Session2: まずはOOさん、チューニングでしよう。

ウクレレを持ってます、はじめに大事なことで、チューニングなのであります。チューニングの仕方は

- ・音叉でカーンとやって1弦の音と振動に揺らぎがなくなったらOK! その後、弦をはじいて各弦の音を合わせていく。
- ・音程の狂ってない楽器からウクレレの開放弦に合う音を拾って やはり振動に揺らぎなくなるまで合わせる。
- ・調子笛というものを使って各弦の音との振動に揺らぎなくなるまで合わせる。

音感のいい人ならなんとなくこんな調子でチューニングをやっけてしまうのですが、ウクレレ初心者キットの中に音叉やら調子笛が入っているのです。(201)

調子笛で音を合わせていると時間がかかる場合があります。それは揺らぎがわからない場合です。なんとなく音があっている状況でOKなのですが、これがわからないと、やはり訳がわからない内容。さらに困ったことに、練習会などで周りが賑やかだと、調子笛の音が聞こえなかったりするのです。そこで、今回おすすめいたしますのが、(OOフォンショッピングみたいですが)チューナー又はチューニング・マシンという機械です。実は、これを使い始めてから重宝してしまい、肌身離さず持ち歩いています。

今回はとっても便利なチューナーというマシンを使ってみましょう。

(202)これがチューナーです。このチューナーは比較的安い品物なので買いました。高い、安いがありますが、どれでもだいじょうぶだと思います。

注意ですが、ベース用、ギター用、ウクレレ用、オールマイティ用(クロマチック・チューナーという)とあります。

写真のものはオールマイティ用のクロマチック・チューナーであります。

ウクレレ用となればウクレレの弦に沿った専門的なチューニングが可能になりますがベース用、ギター用ですとチューニングする音が違うので買い間違いのないようにしましょう。多分、ウクレレを買うときにチューナーを購入したり、ウクレレ用のチューナーと言えばまずは間違いのないですね。(どういわけか?このオールマイティが一番安い。なぜ?)

(203)ここにマイクがついていますのでここで音を拾ってマシンが判定してくれます。弦の振動がどうたらこうたら、と言うことよりも音があつてマイクがその音を拾うとチューナーが反応して判定してくれます。(自分の声でもいいんですよ(笑))。

(204)電源を入れて、弦をはじきながら上から4弦はGです。(器用にネックの上に置いています)はじいた時に針が動きますから、合わせてみましょう。左手でヘッドに付いているペグ(糸巻き)を回してみますと針の振れ方がかわりますよね。大抵、ヘッドの方向に向かって巻いてあげると締まります。だから音程が上がります。逆に、緩めると音程が下がります。

(205)これがそのときの様子ですが、針が右に行きすぎると赤ランプのみが点灯してますのでちょっと高いです。

(206)この図を見ると真ん中の緑のランプがついてますよね。このぐらいはよしとしましょうよ。ほんとうは真ん中の0のところに針が止まるとぴったりなのですが、まー、そのあたりは良いでしょう。

(207)右手でチューナーを持ってサウンドホールの近くにマイクを持っていて音を拾う方法でもよいでしょう。こんなマシンを使ってもやはり、周りがうるさいと周りの音に反応してチューナーが暴走してしまいます。合わせているそばからとてつもない音が判定されたりして・・・。賑やかな時はこのマシン使えるの？(続く)

ちょっとポイントとして、ペグ(糸巻き)を締めながらチューニングをしていくのですが、メータの振れが先に行ってしまったら、

☆緩めて調整しないで、いったん、きゅっ!と緩めてから「締めて締めて、若干締めて」で音を調整するようにすると微妙な調整ができます。☆緩めながらだと、ネジが緩む方向に向いているので、ちょっと弾いたら緩むぞ!という合図の元に緩み安くなります。(なんでも勢いというものがありますからね。)

☆締める方向で調整しておく、おまじないと思っても構いませんが、ネジが締まっている方向を向いているので、緩む方向には抵抗を持っています。緩みにくいのです(理論的には・・・)。

☆あまりペグ(糸巻き)が緩みやすいと困るので、そのときはペグ(糸巻き)の上のネジを締めておきましょう。

(208)さて、お待たせしました。押し売りじゃありませんが、周りがうるさい、賑やかな、密かに、と周りの音を気にせずにチューニングができてしまう、そんな道具をご用意いたしました。

この左手で持っている部分がマイクなのであります。右手に持っているのはジャックでこれをどこに差すのか?がポイントなのであります。クリップタイプで、ウクレレの振動を拾ってくれます。

(209)このようにチューナーの側面にマイクの入力端子がついているので、ここに差し込むと、チューナーの前面についていたマイクが音を拾わずにジャックを差し込んだマイクだけが音を拾うようになります。

(210)このように差し込めるのですよ。

(211)そしたら、さきほどのクリップマイクをウクレレのヘッドにはさみます。どちらが上?下?ということはありません、どこに挟んでいただいてもけっこうです。音がウクレレのどこでも構いません(としておかないと耳に挟む人がでてきてしまうかな?)。

(212)あとは周りの音を気にすることなく弦をはじいてください。さらに便利なのはチューナーを離れたところに置いてもいいので、膝の上なり、机の上に置いてゆっくりと調整してください。

(213)かっこつけて膝の上に意識して置いてみた。

(214)どうも膝の上は見やすいな。

(215)さて、おさらいです。

ウクレレの手前から

4弦を調整する時は「G」に合わせてください。

3弦は「C」です。

2弦は「E」です。

1弦は「A」です。

(216)緑ランプをめざしましょう。

厳密に糸巻きを巻いたり緩めたりしていると時間がなくなってしまいますので緑ランプがちこっと点灯すれば良いのではないのでしょうか。周囲にちょっとでも音がずれているのが気になる人がいると大変なことになるのですが、若干高めにセットしておいてあげると弾いているうちにだんだん緩んできますので、ま、ちょうどいいかな?

Session3: ウクレレ構え方百選。

さて、どうやって構えましょうか?

いろいろな本にいろいろな構え方が紹介され、いろいろな先生によりいろいろな構え方があると思います。とりあえず、見てみましょう。

(301)この構え方は右肘の裏側にぴったりとつくように抱えます。ウクレレはお腹あたりにあると良いです。自然に姿勢が良くなるのです。

(302)お腹にぴったりと付けてしまいましょう(すみませんお腹がない)。

(303)次のパターン

次は、似たようなものですが、右肘の裏側までびたりと付けなくて軽く、二の腕がウクレレを挟んでいる状態。

(304) このように二の腕にウクレレのボディを乗せて

(305) そのまま右手を手前から寄せてみてください。そのまま抱えることはできませんが、ボディがズルッと下に落ち気味で腕がウクレレを抱えている。なんとなくさっきと似たようなスタイルになります。がっちり押さえてないリラックススタイル。

(306) 次のパターン。次は、ウクレレのボディを右肘の裏に押しつけて、

(307) 腕がウクレレの真ん中に、ネックとヘッドの線に沿って一直線になるように抱え込む形。

(308) 自然に上の方で抱え込むような形になります。

(309) 次のパターン。次は、さらにラフ。座った時に脚の付け根のところに置いてしまう。

(310) それで弾く。右手でウクレレを無理に挟まなくてよい。

(311) こんなところに置く。

(312) お腹に密着しているように見えますが、密着させないでね。

(313) お腹に密着させるとこの部分がビリビリひびいているのがわかります。これを一緒に鳴らしてあげようかな？と思ったら離すと良いのですが、抱えたら、くっついてしまいますからね。どうしましょう。ウクレレのボディをお腹に密着させるのを良しとする先生、ウクレレのボディを鳴らしてあげるならウクレレを離してあげないと、と言う先生、いろいろあります。どれを選んでも構いません。自分の気に入ったパターンにしましょう。ちなみにわたしは気まぐれです。

(314) 次のパターン。さて、もうひとつ。座っているからこそ、先ほどはボディを乗せて右手の抱えなしで弾けたのですが、座っていたって、右手で押さえ込みながら弾くこともできるんですよ。

今度はかっこよく膝の上に乗せてしまうのです。そして、

(315) 脇で固めるのですが、脇で固めるところはボディの側面です。上から押さえつけるような感じ。

(316) こんな感じで、ウクレレを持っているんだけど、ギターを持っているような感じになりますね。

(317) (318) こんな弾き姿になります。

さらに次のパターン。座っていたって、膝の上に乗せたり、脚の付け根に乗せたりしても肝心の弾くときに弾きづらいから、上に持ち上げたけれど、やはり抱えるとうとう不安定で、もっと楽な方法ない？と思われる方もいるのです（特にわたし）。

今までの抱え方は、なんと！長袖の上着を着ていたとすると、その長袖の袖が弦に当たってミュートをしてしまうのです。「あれ？音が出ないや」と思われるときは袖がミュートしているのです。ちゃんと腕まくりをして、抱えて弾きましょう。

そんな！、それも面倒。じゃ、なるべく楽してみましようか？ということで最後の抱え方をご紹介しましょう。

(319) さて、取り出しましたるこの品物は「ウクレレ・ストラップ」と言う。抱え方と何か？関係があるの？まあ、聞いて。

(320) 先端にフックがついているので、これをサウンドホールにひっかけます。

(321) 引っかけたら、下に伸ばして、ウクレレのくびれのところからヒモを裏側に回してください。

(322) そうするとこんな感じ。あとは首にかけてみてください。首元で長さが調整できるので、短くするとそのまま中段の構えに・・・。

(323) 中段の構えになるのですが、右手の抱え込みは全く無理がありません。気楽です。抱え込んでいるような、ウクレレを弾いているような。

(324) あっとしまった！手を離してもフックがあるのでこの通りぶら下がります。立って演奏するときは、ストラップがあると便利かな？

(325) (326) ストラップでかかっているから、右肩に力が入らなくなるから初心者にはこの方がいいかな？気楽な気持ちで演奏できるようになるかもしれない。ぶら下がっている安心感から、左手もスムーズに動きますか？

(327) さて、先ほどのスタンダード型ならくびれがあるので、ずれることがないのです。ところが、なんとでも可愛いVパイナップル型をお持ちの方は、

(328) このように首をしめるような状態になってしまい、1弦の12フレット近辺をミュートしてしまっています。あーあ、とあきらめてしまった方が多かったです！

(329) それでは、ここに取り出したる品物は「どこにでもある輪ゴムが2本」。

(330) まずは輪が3個になるくらいにしてストラップを通します。

(331)(332) ちょっと余分な写真になってしまいましたが、もう一つの輪ゴムも3重の輪になるようにして、ストラップを通すのです。

(333) つまりはこういうこと。輪ゴム2個を3重の輪っかにして、ストラップを通してあげるので。

(334) パイナップルのウクレレのサウンドホールにフックをひっかけて、ストラップを垂らしてきますが、まず一個目の輪ゴムが最初の折り返しのところボディ表板の曲がり角に輪ゴムが当たるように輪ゴムをずらしてください。

(335) 次に、ボディ側板の折り返しのところに輪ゴムが当たるように2番目の輪ゴムをずらしてください。このとき、輪ゴムが広がるようにしておくと複数の箇所当たってずれなくなります。

(336) あとはいつものようにストラップを付けてあげますと、はい、この通り、パイナップル君の首を絞めることなくパイナップル君をちゃんと支えていますね。

「もう！輪ゴムなんてダサイからやだ〜！」と言われるのを覚悟して書いてますので、これはアイデアですから、これを元にしておしゃれな方法を考えてみてください。よろしく。

さて、抱え込みの方法、たくさんありました。どれがよいのか？みんな良いです。自分のフィーリングに合うモノを選んでやってみてください。このページの終わりに、抱えて演奏している感じの写真がありますら、それを見て、選んでみてください。また、自分にあった抱え方、体型に合わせた持ち方への参考になっていると思いますので、「ウクレレはこう持つんだ！」と、押しつけない方が良いでしょう。参考にしてみてください。

Session4: これで弾けます？みなさん弾いてます。

(401)(402) さて、次は弾き方ですが、こんな風に体中で肩からぶるんぶるん弾いてしまいますとせっかく押さえこんだウクレレが安定しませんからね。(じゃら)パフォーマンスとしてはよいでしょう。

(403) 「らん！」とここまで大きくぶることはありません。

(404)(405) このように抱え込んだ状態で肘を軸にして、または手首を軸にして「ぼろろ」

(406) 「ろん！」と言った具合に弾きましょう。

(407) これは弾いている感じを出してみたのです。

(408)(409) さて、その肝心の弾き方ですが、人差し指で弾くのです。こんな握りで弾くと弾きやすいかも知れませんがね。

(410) こっちらから見ますと、こんな感じになってます。

(411) 上から見ると！

(412) 下から見ると！人差し指の横っ腹で弾いているような感じに見えますね。

(413)(414) 握り手は上から見るとこんな感じ。指の腹が当たると柔らかい音になります。ちょっと目立とうと思ったら爪を当ててあげるときらびやかな音がでるので使い分けができるようになるとうれいですね。

(415) ちょっと立てて弾いてみました。わかりますでしょうか？

いままで、右手の抱え込み方や右手の弾き方を学んで参りましたが、左手も実は支えているのです。よって、今度は左手の基本的な支えるポジションといいたいでしょうか？左手の基本的な位置をご紹介しますおきましょう。

(416)(417) 人差し指の付け根のところにヘッドとネックの境目が乗っかるような持ち方をして起きますとよろしいです。1フレット、2フレット、3フレット近辺のコードはそこから折り畳むようにして押さえられますので、左手の支えはほぼ完璧。

(418) 角度が変わりましたが、裏から見るとこんな感じですか。ちょっとわかりにくい写真ですかね？

以上で、ウクレレを支える体のポイントの説明を終わりにしたいと思いますが、おわかりになりましたでしょうか？ここから下はお試しセットじゃなくて、ウクレレ構えのサンプルです。

(419) 弾いているときの姿勢ですが、はじめはどうしてもこんな猫背気味になってしまいます。なぜなら、左手の押さえを見に行くからです。これから学ぶ簡単なコードは、徐々に見なくても押さえられるようになるので、そうすれば、次第に頭を上げて、背筋が伸びてシャンとしたウクレレ奏者になってますよ。中段で抱えるとこのような感じになります。

(420) 下で構えるとこんな感じになりますね。どちらかというと、こんだけ下の方で構えると人差し指では弾きにくいかもしれませんね。

(421) そして、上段で抱えるとこんな感じになりますね。

今回中段の構え（なにやら厳かな名前）でシャキンとしてみました。

(422)(423)背筋が伸びるとにっこり笑顔になってくるもので、不思議なもの。ウクレレの指板面をなるべく見ないで弾けるようになりたいものですよね。写真を撮るときは、左手がそれらしいところを押さえて、パシャ！と撮れば、もう、気分はウクレレ奏者！

(424)(425)弾いている人の横から見てみますとこんな感じ。二人ともにこやかに演奏してますね。たのしそうですね。

(426)(427)ストラップをかけて弾いても、シャンとして弾いてますね。

Session5: マキシンのコードを覚えよう。

では、今度は左手でちゃんとコードが押さえられるようにしようか。ウクレレでは短音でメロディーも弾けるけど、まずは、CMでも流行っている「マキシ！」のビレパラアースが歌えりゃ、大もうけ！って感じで、「マキシ」が、チャランチャランと弾いているのが「コード」と呼ばれる音、和音だね。

じゃ、さっそく押さえ方。(501)(502)

ウクレレを教わって、いきなり感動するのが、このコード「C」。とりあえず、中指でこの1弦の3フレット目を押さえて、弾いてみよう。「C」の押さえ方。

||---||2--- この図の上から、写真の下からとなって
|b---||---| なんだかややこしいが、左の図は、
|b---||---| 自分がウクレレを構えたときに見える
|b---||---| 指の押さえ図なのだ。

数字の1が人差し指、2が中指、3が薬指、4が小指です。一番左側のoは押さえない意味、これはそのままジャラララーンと弾く。さて、音ができましたか？この時に、親指はどうしてる？

(503)ちゃんとこのように裏側にきちんと入っているかな？できれば、次に行ってみようか。

(504)(505)今度は、Gのつもり（ほんとはG₆という音なんだけどね。）。

「Gのつもり」

||---2---||

|b---||---|

||---1---||

|b---||---|

って押さえるんだけど、わかるかな？人差し指と中指しか使ってないよ。親指はちゃんと裏側にね。

(506)(507)次は「D₇」ってコードだよ。さっきの形と似ているよね。ただ、上にすらしただけなんだよね。

「D₇の省略形」

|b---||---|

||---2---||

|b---||---|

||---1---||

まずはこの3つのコードで「マキシ」のビレパラアースが弾けるんだ。（マキシさん、製薬会社さんごめんなさい）

「弾き方」

G G G G G G G G
ビレ パラ アー スは きき めが なが い

G G G G G G G G
...

C C C C G G G G
...

D₇ D₇ D₇ D₇ G G G G
...

C C C C G G G G
あー あー あー んあ やん なっ ちゃったー

D₇ D₇ D₇ D₇ G G G G
あー あー あー んあ おど ろい たっ ..

Gって書いてあるところで一回上から下にポロロンと弾く。同様にCもD₇も弾くんだよ。

「ポイント」

(508) (509) 最初、これがGだったよね。ずっと、これを弾き続けていくんだけど、次に出てくるのは、

(510) (511) このCってコード。「人差し指を離して、中指を押さえたまま隣に移動する」押さえ方ってということがわかってほしいんだよね。それで、次に出てくるコードが

(512) (513) また、Gで元に戻るんだけど、この時はさっきの逆、「中指を隣にずらして、人差し指を添えるだけ。」ね、簡単？でしょ。そして、次に出てくるのが、

(514) (515) D₇ってコード。Gの押さえ方と似てるよね。「人差し指と中指の押さえていたところ一個ずつ上にずれただけ。」わかったかな？そして、次に出てくるのが、

(516) (517) また、Gなんだよね。だから、さっきの逆。「人差し指と中指の押さえていたところを一個ずつ下にずらせばいい」 どうですか？ わかったかな？

ま、こんなところなんですよ。

で、さっきGが本当は違うんだよね、って言ったのは、音を聞いていて、「マキシ」の音と違うよ、と思っただけ。でね、本当のGの押さえ方を教えよう。もう、Gと言ったら人差し指と中指の2本で押さえられるよね。じゃ、

(518) 裏の親指の位置をちゃんと確認して、

(519) (520) まずはさっきのGの押さえ方をするよね。

(521) (522) そうしたら、そのままで薬指を上にあげてきて！

(523) (524) 人差し指と中指の間の隣に持ってきて押さえて。ん？よくわからないって？ダイアグラムを出せ！って。なかなか言うね。

「ほんとのG」

```
||---2---|---|
||---3---|---|
||---1---|---|
|b-----|---|
```

なのだ。これで弾いてみよう、きっと満足する音が鳴るはずだ。

この押さえ方ができるようになったら、さっきのGのところをこのGの押さえ方でやっごらん。さっきよりいい感じになるでしょ。

Session6: こいのぼりから恐怖のG₇まで。

さて、これで「マキシ」の「ピレバラアース」は良しとして、今度は、さっきのGが押さえられた人も押さえられなかった人ももう一つコードを覚えよう。

(601) (602) ここを押さえて、弾いてみよう。「Fもどき」(ほんとはFadd9という)

```
|b-----|---| |
||1-----|---|
|b-----|---|
|b-----|---|
```

すっかりダイアグラムに慣れてきたかな？このコードはFもどきですが、Fの響きを持っているので代用できます。しかもFよりきれいって感じがしませんか？

さて、このFを覚えたところで、「こいのぼり」を弾いてみよう(著作OK)。

```
||C C C | C C C | C C C | G G G |
||やね よーり | たーかーい | こいのぼーりーー・ |
```

```
|C C C | FED* C C | G G G | C C C |
|おおきーい | まごいーは | おとーさーんーー・ |
```

```
|FED*FED*FED* | C C C | D7 D7 D7 | G G G |
|ちいさーい | ひごいーは | こどもーたーちーー・ |
```

```
|C C C | FED* C C | G G G | C C C ||
|おもしーろ | そーーに | およいーでーるーー・ ||
```

「こいのぼり」は知っていると思うので歌いながら挑戦してみてください。F[♯]を一拍、そしてCを2拍とはむずかしいとお思いでしょうが、薬指でCを押さえて、人差し指でF[♯]を押さえるというふうになら、指が広がってくれるとうれしいな?と思っています。ここはちょっとしたリズムレスンになりそうですね。

ところで、「ほんとのG」を使って弾いてみると、「こいのぼり」はらしく聞こえるよね。「ほんとのG」がまだちょっと押さえられない人はまだ、

(603) (604) これでもいいけど、徐々に

(605) (606) このGが押さえられるようになるといいね。

さて、さっきの「F[♯]」ってほんとはどうなの?そう、思うだろうと思って、もどきって言葉をつかったんだ。

(607) (608) 人差し指で押さえたよね、さっきのF[♯]。中指が上に行くんだ。

(609) (610) 中指が一番上を押さえている。

「F」
b|--1--1--1--
|1--1--1--1--
b|--1--1--1--
|1--2--1--1--

ちょっと、写真だと薬指も押さえているように見えるけど、人差し指と中指だけだね。かんたんだね。

こんどはこのFを使って「こいのぼり」に挑戦してみよう。

さて、最後に、いままで、Cの押さえ方は「中指」Gは「人差し指」と「中指」、ほんとはさらに「薬指」と、押さえ方にルールを付けたんだけど、次のコードが弾きやすいように、指の押さえ方は自由に変えていいんだよね。例えば、Fを弾いて、Gを弾いて、Cを弾いてとすると、

(611) (612) F[♯]

(613) (614) G[♯]

(615) (616) Cだよ。

ちょっと無理したかな?と思ったが、「マキシム」でやったときは、中指を横に移動するってかいたけど、薬指が空いているので、Cを押さえるときに薬指で押さえてしまうことだってできるんだ。

こんな風にやってもいいんだよね。

どんなもんだろう。とりあえず、ここまで弾けると、いろいろ弾けるようになっていっていると思うので、いろいろチャレンジ!したくなってきたよね。そこがウクレレのいいところ。しっかり、はまってしまったので、今度は市販の本にチャレンジしてみよう。

ということで、市販の本にはいろいろなコードが出てきます。そこで、特に難解なものの一つご紹介しましょう。Gと言うコードからG₇への移り方があります。

(617)これはGのコードでした。

b|--2--1--1--
|1--1--1--3--
|1--1--1--1--
b|--1--1--1--

(618)さきほどのGのコードから人差し指を2弦の1フレットに移動。

b|--2--1--1--
|1--1--1--3--
b|--1--1--1--
b|--1--1--1--

(619)続いて、中指を1弦の2フレットから3弦の2フレットへ移動。

b|--1--1--1--
|1--1--1--3--
|1--2--1--1--
b|--1--1--1--

(620)そして、薬指を2弦の3フレットから1弦の2フレットへ移動。

b|--3--1--1--
|1--1--1--1--
|1--2--1--1--
b|--1--1--1--

これで完成なのであります。かなり難しいですね。

(621)(622)

(623)こんな感じですばやく移動できると良いのであります。

トラブルの素！怖いGとG₇（難しいので後で読んでね）

(624)さて、いきなりGとG₇の移動ができるわけでもないのですが、G^{F#}の押さえ方は前にやりました。人差し指と中指で押さえていたのを思い出して欲しいのですが、ここではG^{F#}を中指と薬指で押さえてしまおうという話。

```
|1--3--|
|1--|
|2--|
|1--|
```

(625)そのままの形で人差し指を2弦の1フレットに添えればなんとG₇を押さえている。

```
|1--3--|
|1--1--|
|1--2--|
|1--|
```

(626)また、さっきのG^{F#}の押さえ方で小指を2弦の3フレットに押さえればGになるのです。

```
|1--3--|
|1--4--|
|1--2--|
|1--|
```

つまり、GからG₇への移動をこのようにしてしまえば、楽かも知れない、と勝手に思って作ってみました。こっちの方が難しいかも知れませんね。

(627)(628)人差し指と小指が変化しているのがわかればよろしいのです。実際、演奏中にこのようなことができるか？というところもいまいちなのですが、

たとえば、まだやってないA₇-D₇-G-G₇というコード進行があったときに、この方法を行うと、ちょっと指が難しいかな？と思います。できれば、最初に説明した、やっかいなGからG₇への移動を練習してください。何度か、その動きを練習していると自然に身につけてしまいます。ちょっと無責任ですが、これは試練だと思ってください。

Session7: 特選コードと誕生日曲、緊急指令！セーハを制覇せよ！

さて、簡単なコードはまだあります。曲のしながら説明していきたいのですが、ここではコードの押さえ方の説明だけさせていただきます。

頻出コード。

(701)これはC₇というコードです。

```
|1--|
|1--|
|1--|
|1--|
```

よくこの後にFのコードへ移動します。

(702)これは、先ほど出てきたA₇と言うコードです。

```
|1--|
|1--|
|1--|
|1--|
```

(703)これはA₉と言うコードです。

```
|1--3--|
|1--|
|1--|
|1--|
```

このコードはバンプと言われるイントロ、エンディング一歩手前、区切りに使われるものでよく出てきます。

A₉-D₇-G₆というバンクはきれいなコード進行で覚えておくと便利。このコードは全て2本指でできますね。おさらいはしませんが、D₇とG₆はすでにやりました。

既にお話したマキシム・フリーズのイントロに使ってあげると、意外におしゃれな感じを味わえるのですが、おしゃれな感じという雰囲気がおわかりになりますでしょうか？

(704)そして、これがAというコード。

```
0|-----|
0|-----|
1|1-----|
1|2-----|
```

(705)これは、Amと言うコードです。

```
0|-----|
0|-----|
0|-----|
1|2-----|
```

そろそろ、コードばかり弾いて疲れてきたところで簡単でおしゃれなハッピーバースデーチューをやってみますか？

ナシ C C C G₇ G₇
はっぴ ばーす でー つー ゆー うー

G₇ G₇ G₇ G₇ C C
はっぴ ばーす でー つー ゆー うー

C C C C₇ F^{tr}* (ジャラジャラと盛り上げる)
はっぴ ばーす でー ていあ なんとかちやーん

ナシ C C G₇ C C C (3111)・・・(2000)
はっぴ ばーす でー つー ゆー うー うー (エンド)

コードの弾き方は、相変わらずその言葉のところで弾く。エンディングの部分は簡単ではあるものの新しいセーハという押さえ方が入っています。(3111)という表記は、左から1弦の3フレットを押さえる、2弦の1フレットを押さえる、3弦の1フレットを押さえる、4弦の1フレットを押さえる。という意味です。ですから、(2000)は左から1弦の2フレットを押さえる。2弦から4弦までは押さえない。の意味です。これについては後で、ご紹介します。と、いうわけでセーハを見てみることにしましょう。どんなコードがある？

(706)これはFの押さえ方。

```
0|-----|
1|1-----|
0|-----|
1|2-----|
```

ここで薬指を3弦の2フレット中指の下に入れて押さえあげると、

(707)Dmというコードが出てきます。

```
0|-----|
1|1-----|
1|3-----|
1|2-----|
```

通常、この2と3の指の押さえ方は3の指を使わずに2の指で3弦と4弦を押さえるセーハという手法を用います。

(708)これがDmを押さええている時のセーハの形。中指の第一関節が反対に曲がって3弦と4弦を押さええている様子がわかりますでしょうか？

```
0|-----|
1|1-----|
1|2-----|
1|2-----|
```

と表記しています。

(709)セーハが出てきたので、以前に習った、D₇はこの押さえ方がある。前は

```
0|-----|
1|2-----|
0|-----|
1|1-----|
```

だったけど、今回の場合は

```
0|1+2-----|
1|1-----|
1|1-----|
1|1-----|
```

人差し指が全部の弦を押さえているのだ、そして、中指が1弦の3フレットを押さえる。このような全弦を一気に押さえてしまうことを「BAR（バー）」と言います。バーは後々便利なものとしてたくさん出てくるのですが、まずは押さえ方が難しいです。

(710)さて？これは？ってさっきのお誕生祝いの歌のエンディングで出てきた(3111)と言うコード。C*ma7(シー・シャープ・メジャー・セブンス)というのであります。

```
||-1-+-+3+---  
||-1-+-+---  
||-1-+-+---  
||-1-+-+---
```

ちなみに(3111)と書いたのは、1弦の3フレット、2弦の1フレット、3弦の1フレット、4弦の1フレット、を押さえるよ、の意味であります。上の線が引いてある図は、1が人差し指で、2が中指で、3が薬指で、4が小指でという図なので、(3111)とこの図を混同しないようにしてくださいね。

(711)これはお誕生日ソングの一番最後の音(2000)です。コードネームはCma7(シー・メジャー・セブンス)と言います。

```
||-+1+---  
|b-+-+---  
|b-+-+---  
|b-+-+---
```

これは一本指で押さえられるコードですね。こんなところにもありましたね。

(712)ちょっと難しいコード。これはDと言うコードです。さっきDmと言うコードが出てきましたがなんとなく似ているコードです。

```
|b-+-+---  
||-+3+---  
||-+2+---  
||-+1+---
```

この押さえ方は難しいと思いますが、実は、本にはこの押さえ方は出てません。本には、

(713)このように出ております。

```
|b-+-+--- |b-+-+---  
||-+3+--- ||-+2+---  
||-+2+--- ||-+1+---  
||-+2+---または||-+1+---
```

写真では中指が3弦と4弦を同時に押さえています。Dmの時も中指がセーハをしましたので、この方法が覚えやすいと思います。

さて、最後に試練とも言わべき超難関のセーハが待っていました。これを解説しておかないといけません。

(714)恐怖のBb(ビー・フラット)です。

```
||-1-+-+---  
||-1-+-+---  
||-+2+---  
||-+3+---
```

なんじゃ！これかと思いますが、これは代用品がないし、この押さえ方さえマスターすると、あとで楽になるのです。仕方ないと思って耐えてください。

(715)まずは、人差し指で1弦と2弦を同時に押さえられるようにして見ましょう。これだけの押さえ方ですと、

```
||-1-+-+---  
||-1-+-+---  
|b-+-+---  
|b-+-+---
```

C7sus4と言うコードで、この後にC7を弾くと安心できるコード。まずは、この人差し指の訓練といきましょうか。と、ここで終了。

(716)そしたら、あとは中指と薬指を階段状に並べて終わり。これだけ押さえて鳴らすのはどうです？簡単になりましたね。

```
||-1-+-+---  
||-1-+-+---  
||-+2+---  
||-+3+---
```

この押さえ方のポイント。

(717)じつは、ヘッド側に倒れ気味に押さえているのがわかりますでしょうか？人差し指は指板からズリ落ちそうな押さえ方、中指は人差し指に寄りかかり、薬指は中指に寄りかかり、小指は立つのを押さえて・・・(これはいいとして)裏側で支えている親指の先はヘッドの方向をピッと見ているのがわかりますか？これがポイントなのです。

(718)(719)じつはギターをやっている人は人差し指をBARにする機会が多くてあんな押さえ方面倒だよ、といいながらこんなBbの押さえ方をすることもありますが、これでも同じです。

```
||-1-+-+---  
||-1-+-+---  
||-+2+---  
||-+3+---
```

ただ、人差し指が伸びただけなのです。できることなら、

||-1+---+---+---+
||-1+---+---+---+
||---+2+---+---+
||---+---+3+---+---

こっちの押さえ方で覚えて欲しいのですが（こっちのほうが簡単）、曲によっては

||-1+---+---+---+
||-1+---+---+---+
||-1+2+---+---+
||-1+---+3+---+B♭

そして

||-1+---+---+---+
||-1+---+---+---+
||-1+---+---+---+
||-1+---+3+---+B♭m

という進行あって、そのときにはBARを使ったB♭が有効になるという。

結局のところ2通り使えるようになって良いのですが、まずは

||-1+---+---+---+
||-1+---+---+---+
||---+2+---+---+
||---+---+3+---+---

この押さえ方で行きましょうね。

(720)と、セーハはただ押さえりゃ良いのではなく、やはりコツのようなものがあると思われます。さっそく見てみましょう。

(721)(722)

(723)(724)そのままコードを見ながら押さえるとこんな感じに押さえていると思います。何かいけないか？ということはありませんが、実は、セーハを押さえて困ることが、きちんと4つ音が鳴らないことなのです。ものはために、押さえてから一弦一弦をはじいて、音を鳴らしてみてください。するとどっか音が鳴っていなかったり、ピリピリと鳴ったりしてませんか？特に(62)の人差し指の第一関節のところは浮いていますね。

ここからはそんな方々にちょっとアドバイス。かなりこれで治ると思います。

(725)(726)何が変わったか？わかりますか？同じ押さえ方ですが、さっきの押さえ方とは実は違うところがあるのです。こう、押さえますと、実はセーハがきれいに押さえられ、さらに、指全体に力が入って音がきれいに鳴るのです。はて？何が違うのだろうか？

(727)(728)左右の差をよくご覧になってください。わかりましたか？ ☆セーハを押さえるときにどうしても手の平でウクレレのネックを押さえてしまおうとするのですが、その結果、人差し指がまっすぐ伸びないで中間が浮いてしまう。つまり2弦、3弦あたりがちゃんと押さえられていなかったりするのです。☆そこを人差し指の第2関節を伸ばすようにして押さえてあげると、指全体に力が入り、ピンと伸びた指が全弦をきちんと押さえていると言う感覚が指に感じるようになります。そのときは、ちゃんと鳴ってます。では、ウクレレのネックは支えなくても良いの？と思いますが、この時、セーハしながらネックを挟んでいるので安心してください。

(729)(730)さて、恐怖のB♭も同じようになるのでしょうか？左のように指を伸ばしてしまうと、やはり押さえられるのですが・・・。実は、次のコードに移りにくくなってしまいます。よって、この場合は、右の図のように、一差し湯の第二関節から折れて押さえた方が良いのです。実は、B♭の場合のこの折り曲げの押さえ方は利にかかっているのです。無理矢理押さえるというこのポーズ、実はネックからずり落ちるような押さえ方をしているのです。つまり1弦側に弦を引っ張っているような感触で押さえると全部先の方だけきちんと押さえつけることができるんですね。

まったく、統一した押さえ方じゃにやいのかの？

(731)(732)さて、セーハというとしっかり押さえなきゃならないので、しっかりの親指さんははたしてどうなっているのでしょうか？実は、親指を横に向けて、フレットの低い方ではヘッドの方を押さえてあげると意外にセーハが押さえやすい。

☆セーハと言うとたとえば、

(733)人差し指のすぐ下に親指が来てないといけないように思いますが、実はそんなことではなかったのです。

(734)これは極端に押さえてますが、人差し指がセーハを押さえています。親指があんなところにあるのは、どういうことなのでしょう。同じように押さえて、親指を押してみてください。すると人差し指がギュッと押しつけられているのがわかると思います。セーハはテコの応用なのです。そこで、指が伸びているとより力が加わり安いということなのです。

(735)今度は、薬指が加わった押さえ方ですが、この時もテコの応用です。人差し指を軸にして親指を押してみますと、今度は薬指が簡単に押さえ込まれますよね。この時軸になっている人差し指が3フレット側に若干倒れているのがわかりますでしょうか？別に、各指の握力・指圧力が

なくても、テコの力により難しいところがおさえられるようになるのです。

(736)(737)だから、こんな小指がさらに外に行ってしまったようなコードもテコの応用で簡単。今度はテコの軸から小指がかなり離れているので、人差し指がかなり3フレット側に倒れていることがわかりますね。実は指の腹で全部の弦を押さえるよりも指の側面で押さえた方が堅く押さえやすくなるのです。(また、拳柄が増えてしまいました)。

(738)(739)じゃ、ということで離れたところを押さえるコードに対して、逆に人差し指の近くを押さえるコードの場合はどうなるのでしょうか？ さっきと同じように3フレット側に倒しても良いのですが、今度は押さえにくくありませんか？写真を見てみると？おや？人差し指が1フレット側に寝ていますね。思い出して欲しいのですが、これはB♭を押さえたときの場合にそっくりですね。B♭とは解釈が違いますが、今度は軸が親指と人差し指との間にあって、人差し指と中指が同時(一体となって)に押さえ込まれていると言った解釈なのです。(B♭はこの方法で説明が付きません、ごめんなさい)

Session8: 響さでムンムン、リズムムンムン？！

ここまでで、だいたい弾いているという感覚になってきました。一通り素通りしてきても構いません。また、見直せば良いのですからね。

さて、こんな声を聞きました。「ねえ、ウクレレやっててちょっともハワイっぽくないじゃない」「ウクレレ持ったら、ちょっと南国ムードを味わいたいじゃない」「ねえ、ねえ」となにやら、周りで声がしてきますね。

じゃ、これまで「弾きますよ！」と言ったら、右手を上から下にポロロンと弾いた、ということしかやってませんでした。今度は一歩進みましょうか。

リズムのトレーニングです。今までの曲の練習では、4分音符、リズムの一拍分を上から下にポロロンでした。今度は様々なリズムを身につけてみましょう。

ピアノや、ドラムのトレーニングでは、4分音符を一拍、8分音符はその2倍の早さ又は数の多さ、16分音符はなんと4倍の早さ又は数の多さと16分音符のレッスンになると腕がぐわいれんしているのではないかと錯覚するぐらい叫びました。しかし、これが弦楽器となると様子が変わります。一回叩くにしても次に上に戻るまでの間に、その動作で弦をはじくとなんと、一回叩いた動作の中に2回叩いた動作と同じことになる。というなんとも便利なことが起きているのです。

何を言っているかわからないと思いますが、上から下にポロロンと弾いたら、下から上に帰るときにブルロンと弾けるのです。つまり、上下に手を動かすことで、ピアノやドラムでの2回分の動作と同じことになるから、彼らよりは楽に数多くの音符を叩くこと・弾くことができるのですよ。

能書きはともかくとして、リズムレッスンに移りましょう。

(801)(802)上から下へおろしているところです。

(803)下へおりた。(804)これから上へ向かいます。

(805)(806)上に行きました。これがダウン・アップのストロークです。

(R01): (星印は一拍を表してます、Down、Upはストロークのこと)

①は今までの弾き方「タン・タン・タン・タン」というリズムです。

さて、新たに②は「タン・タタ・タン・タタ」というリズムです。このリズムを全部上から下へ(Down)の弾き方(ストローク)にしても良いのですが、さっそく、下から上へ(Up)の弾き方を訓練してみましょう。

4分音符は上から下へ(Down)弾く。8分音符1個目は上から下(Down)へ、2個目は下から上へ(Up)と弾いてください。

③は「タタ・タン・タタ・タン」というリズム。

同様に8分音符は上から下へ(Down)、下から上へ(Up)と弾いて、4分音符は上から下へ(Down)と弾くのです。

このリズムはなんとなく生活にあるリズムだと思うのでわかりやすいと思います。

リズム感がないないと言っている人がいますが、実はないのではなく、気にしたことがなかっただけなのです。

気にするにしてもリズムは無関係のようで実は大変重要な役割をしております。それは、脈拍です。運動した後や、ドキドキした後、テンポアップです。普段はテンポも小気味よく、テンポがあまりゆっくりの脈も恐ろしいですが、実にテンポよくリズムを奏でております。自分の手首をちょっと握んでみて、脈をはかってみるのですが、あいまいに握んでみますとなんと、「ドキ・ドキ」というリズムと「ど・ど・どき・どき・ど・ど・どき」とあいまいなカウントをとらえます。これは握んだ手に伝わってくる感触と指先の脈動が混ざって感じられる為です。はじめのうちはその複雑なリズムにリズム感が損なわれたのか？と思いますが、じっと待ってみるとお互いがシンクロしてか？一定のリズムを感じる事ができます。

すなわち、安定したリズムキーパーが体に潜んでいる訳ですし、それぞれ固有のリズム感があり、お互いがシンクロしたときに始めてリズム感がある？ない？を評価しますからいきなり、初対面の人にあなたリズム音痴は失礼ですよね。周りにリズムに対して余裕がある人(変化に対応できる)がいたら、その人に合わせてもらう、と言ったリズムトレーニングを始めて、次第に、その人のリズムを体に馴染ませていけば、自分自身に

新しいリズム感が備わってきますので、リズムに対して不安を抱えている人はあまり深刻に考えないでください。弦を上から下にはじいた時からリズムは始まります。リズム感がない人なんていませんよ。

と言うわけでリズムの訓練にいろいろなリズムとは組み合わせの事柄が多いので、大変むずかしく感じられますが、実は、もう、次のリズムをやるとその組み合わせのパターンが終わってしまっても良いかも知れません。

(R02): (さっきの見方と同様です)

さて、ちょっと難しい話。

④のリズムは、4分音符の後に一回休みがありますが、これがくせ者。作業としては「タン・ンタ・タン・ンタ」

(807)(808)(809) 4分音符で上から下へ (Down)

(810)(811)弾かないで上から下へ (空Down) 下ろして

(812)(813)下から上へ (Up) 弾く。その繰り返し。一回空振りをするのが、実に難しい。

⑤のリズムは「ンタ・タン・ンタ・タン」

(814)(815)上から下へ (空Down) 空振り

(816)(817)下から上へ (Up) 弾く、

(818)(819)上から下へ (Down) 弾くの繰り返し。

⑥のリズムは超難関「タンンタ・タンンタ」

(821)(822)上から下へ弾く (Down)

(823)(824)下から上へ (空Up) 空振り

(825)(826)上から下へ (空Down) 空振り

(827)(828)下から上へ (Up) 弾くの繰り返し。

⑥のリズムが実に難しい、「たーんた、たーんた」とも聞こえる。

番外なのですが、⑥のパターンは8部休符が入っているので、音が鳴ってはいけません。と、そんなときに、空Downや空Upを行っている最中の左手の押さえ方ですが、実はこんな方法があります。

「ミュート」

(828)(829)

左は指が若干浮き気味ですが、弦に触っているのです。右の図はちゃんと押さえていますよね。空のDownや空のUpが苦手と思ったら、左手をこのように強く押さえずに軽く触れるだけにしてあげて、そして、通常のDown、Upを弾いてみましょう。すると、音は鳴らないのですが、「カスッ、カスッ」と言った弦をこすっている音がするだけです。空のDown、空のUpが苦手ともしましたら、こんな方法でも良いです。

が、このパターンが使えるのは、左手が全部の弦を押さえている時のみ有効なので、たとえば、1弦の3フレットだけを押さえているCの時にはできませんね。この場合、右手でミュートを行うのですが、難しくてまだ、できません。ごめんなさい。

また上のミュートを早いストロークで組み合わせると、ギターのカッティングというストロークになって行きますが、まだまだ、それはそれは、遠い道のりですね。

はてさて、これらの6つのパターンわかりましたか？わがんね' がな' . . . ?

この後にシンコペーションというものを勉強しようかと思ったのですが、ここで引っかけりそうだな。

(R03) 容赦なくシンコペーションの話。

⑦は真ん中に弓なりの線がありますが、これは隣同士をつないでしまいますので、隣の音符は弾きません。「たん・タターア・タタ」

2拍目の頭の音がなくなるので、変な感じに聞こえますが、これが次の小節との境目で起きたりすると、前のめりのリズムと言われています。通常、シンコペーションが入っていると前のめりリズムと呼んでたのしんです。

⑧のパターンは後に、クレイジーGという曲を練習するために是非とも覚えておいてほしいです。「タン・タター・タター」すでに、1から6までのリズムレッスンで見方がわかってもらえたと思うので、細かく解説しません。こんなリズムですよと、というところだけです。

やっかいですが、こんなリズムもあることを覚えて置いてください。

さて、

幼少の頃、周りのみんながどこで覚えてくるのか？ピアノを見ると、またはオルガンを見ると誰も彼も「ねこぶんじゃった」を弾いてました。楽譜を見ながら覚えたモノとは違って、両手を器用に使って難しい演奏をしています。ウクレレでも、幼少の時に覚えると言われる「クレイジーG」がありますが、楽譜を見ると真っ黒で困った困ったとびっくりしてしまいます。が、実際、手取足取りとその場でできる人から教わっていきますと、不思議なことに自分がその超難関な楽譜を弾いている自分に驚きます。いきなり、何も知らないところからクレイジーGをやってもよいのですが、クレイジーG以外の曲が弾けないと困ってしまいますので、クレイジーGを何でもないように弾けるようにするために、試練と思って耐えてください。クレイジーGまでもうすぐですね。

はてはて？

めざせ、初心者の星！クレイジーGでござる。

講座：日本ウクレレ協会8月20日の月例会、ウクレレ初歩の初歩

ホームページ：http://www.hi-ho.ne.jp/nua_nua/nua.j.html

作成：「ふるかわくんのうくれれ日記（ウクレレ奮闘記）」主宰 古川 剛

ホームページ：<http://www2.justnet.ne.jp/~old/>

監修：「COBA STUDIO UKULELE SIGHT」主宰 小林 博

ホームページ：<http://www.threeweb.ad.jp/~cobachan/index.html>

協力：「shinfujiのukuleleといっしょ」主宰 藤田伸一

ホームページ：<http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Himawari/9169/>

初心者ウクレレ<http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Himawari/9281/shoshin/shoshin.html>